

コリントの信徒への手紙一 12章 12～31節

NHKBS プレミアムの番組で「脳は腸が変化したもの」と放送していました。クヨクヨ悩んでいるとお腹が痛くなるし、腸と脳は関連が深いことは分かりますが、腸の方が本家で脳はそれが変化したものとは驚きでした。80 kgの体重の私は、80兆個の細胞からできていて、そのすべての細胞の中に30億個の核酸塩基から成り立っている同じ遺伝子DNAがあり、ある細胞は骨をある細胞は皮膚を形成して役割分担して体の機能を守り、命の活動を支えているというのです。

パウロは今朝の聖書の箇所、体は一つでも多くの部分から成り、体のすべての部分は多くても体は一つであるように、キリストの場合も同様です(12節)と書いています。パウロは「体の神学」とも言われる理解に立って教会のことを記しています。コリントの教会は内部分裂でトラブルが絶えませんでした。誰が一番かということではなく、みんなが自分に与えられた賜物を活かして体全体の為に貢献しているかどうかを問わなければならないと。

顔の中で「誰が一番偉いか」という論争が起こって、まつげと目と鼻と口が場所を変えたそうです。一番仕事をしていると主張した口が一番上に位置し、鼻が二番目に座り、目が続き、仕事らしいことを何もしていない眉毛が一番下に位置して「これで良い。これで公平だ」ということになりました。しかし、朝ごはんは味噌汁を飲もうとしたら大混乱が起こり、「やっぱり、神様が置かれた場所が一番良い」と言ったという話です。

ジェームズ・ラブロックというイギリスの生態学者が「地球は一つの生命体」というガイア理論を1960年代に唱え、動物も人間も地球生命体の一部だと言いました。人間の体の細胞のように、地球の細胞の一つとして人間や動物や植物が生き、すべての生き物が共存しないと地球の健康が守れないと警鐘を鳴らしました。人間が経済活動を優先した結果、大気汚染が起こり、気候変動が起こり、地球温暖化が起こりました。今日は平和聖日です。「平和」シャロームは戦争がないだけでなくすべての被造物が神様から与えられた自分の個性を喜んで生き、他の生き物の個性を認めて共存することです。日本は、石油もガスも少ししか出ませんが、雨はよく降ります。この水を貴重な天然資源として活かすと公害を生み出さなくても産業が成り立ちます。太陽光発電も世界で最初に開発したのは日本の学者浜川圭弘です。自分に与えられている可能性を活かそうとする時に、真のシャロームが生まれて来ます。地球は神様が創造された生命体ですから。